

Q1 今働いていますか？

〔回答数91人（100%）〕

働いているが、
雇用契約書を取
り交わして
いない

14人（15%）

ここでの「働く」は賃金をもらっている形態で、家事などは含んでいません。

働いていない
44人（48%）

働いて（雇用
されて）いる
33人（36%）

Q2 働きたいと思うか？

〔今働いていない44人（100%）の回答〕

無回答 2人（5%）

家庭の状況や役割
があり働けない
5人（11%）

あまり思わない
6人（14%）

いつか働ける
かもと思う
7人（16%）

いつも思う
8人（18%）

ときどき思う
8人（18%）

病気のため、
あきらめている
8人（18%）

「長く働くこと」アンケート

このアンケートでの「働く」というのは、（Q1以外）雇用契約を結んで働くということを想定して、パート、アルバイト、派遣、就労継続支援A型なども含んでいます。

Q3 就職活動の状況

〔これから仕事をしたいと思う35人（100%）の回答〕

あてはまるものがない
8人（22%）

まだ何も
していない
10人（29%）

相談場所がわからず、
どうしたらよいか
わからない
4人（11%）

相談者や機関と
つながっている
8人（23%）

ネット、役所、雑誌、ハロー
ワーク等で情報収集を始めた
5人（14%）

Q4 一番長いのは

病気をかかえながら（病気後）、働いた期間で、一番長かったのはどれくらいですか？

5年以上	25人（35%）
1～3年	20人（28%）
6か月～1年	9人（13%）
3～5年	9人（13%）
0～3か月	4人（6%）
3～6か月	4人（6%）

計 71人（100%）

Q5 一番短いのは

病気をかかえながら（病気後）、何回か働いた期間で、一番短かったのはどれくらいですか？

0～3か月	39人（61%）
3～6か月	12人（19%）
6か月～1年	5人（8%）
1～3年	3人（5%）
3～5年	3人（5%）
5年以上	2人（3%）

計 64人（100%）

Q6

病気をした後での 休職や退職の 経験

〔回答数91人(100%)〕

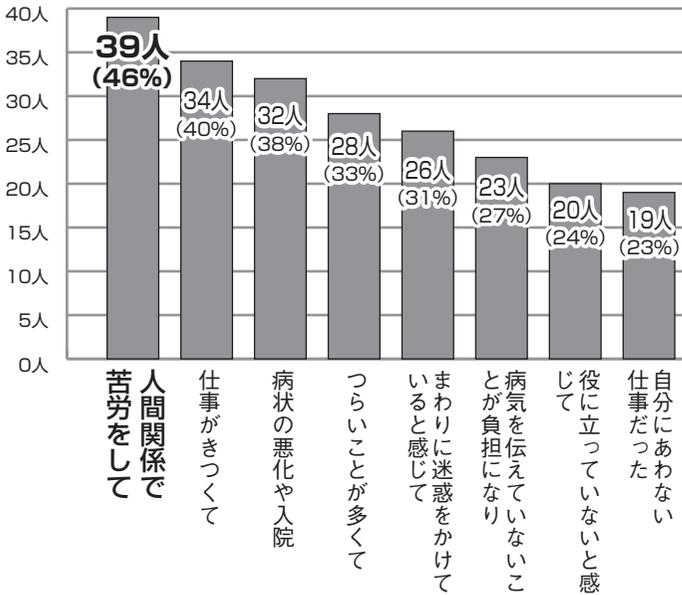
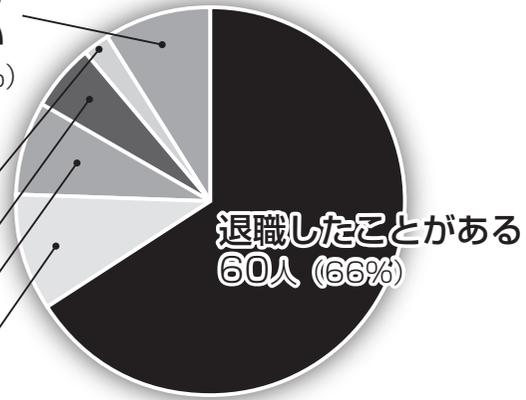
あてはまる
ものがない
8人(9%)

よくわからない 2人(2%)

なんとか仕事を続けている 5人(5%)

発病当時から今も仕事はしていない 7人(8%)

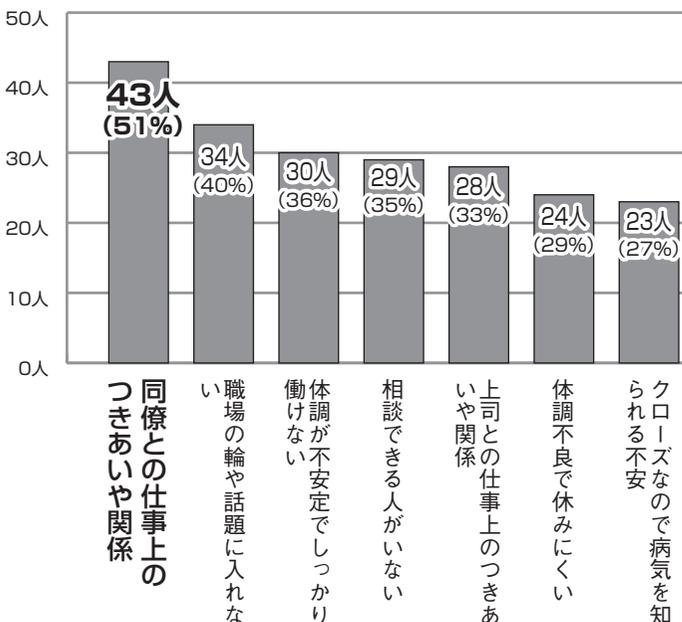
休職したことがある 9人(10%)



Q7

仕事を続けられなかった理由

〔84人(100%)の複数回答〕



Q8

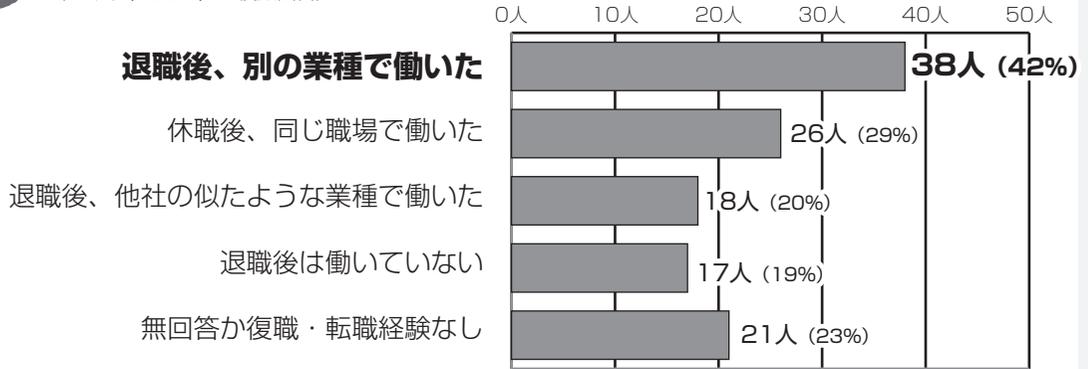
働いているときの不安や困りごと

〔84人(100%)の複数回答〕



リワーク(復職)・転職経験について

(91人(100%)の複数回答)



復職に一番大切だと思うこと

休職後に同じ職場に戻ったとき、一番大切だと思う配慮や対策は何ですか？(全員へ記述式)

記述内容をまとめてみると、

- 病気や病状への理解と配慮 15人
- 病名や状態、体調などをまわり伝えること 8人
- 偏見なく、普通に接してもらえること 6人
- 労働時間の短縮や自宅勤務など、働き方 6人
- 悩みを相談できる人や仕組み 3人
- 安定して、マイペースに仕事ができる環境 3人
- 原因を見つけ、くり返さないこと 3人
- その他、自分についてあげた方が9人、その内容は、



なるべく自分に自信を持つようにする
 会社の縦社会に対応すること
 わかってもらおうと思わず、たんとんと仕事をこなす
 休んだこと、仕事を肩代わりしてくれたことを謝り、お礼を言う
 自分の体調を管理できること
 自分の病気についての自分自身の十分な理解
 職場で気分や体調を相談し合い、適応するよう心がける
 職場の方に信頼されるように、努力している姿勢
 素直に聞き入れる姿勢



調査期間：2015年8月19日～9月7日のネット調査 有効回答数：91人(男性35人、女性54人、答えたくない2人)
 回答者の精神科での疾病(複数回答・多い順)：統合失調症45人、うつ病21人、双極性障害15人、神経症10人、発達障害8人、
 統合失調感情障害7人、恐怖症性不安障害5人、パニック障害5人、摂食障害5人、境界性パーソナリティ障害3人、てんかん3人、
 診断名がわからない・教えられていない3人、躁病1人、その他7人
 回答者の年齢(多い順)：40代36人、30代33人、50代13人、20代6人、60代3人